



営業トラックの交通事故発生状況 令和5年中

1 発生状況

令和5年中の営業トラック（事業用貨物自動車）が第1当事者となった人身交通事故は、前年と比較して、発生件数、負傷者数ともに減少していますが、死亡事故は、3件5人（うち東北道で1件3人の死亡事故）発生し、前年と比較して増加しました。

事故類型別では、追突が約5割（129件中63件、48.8%）を占めて最も高く、違反別では、安全不確認が約3割（45件、34.9%）を占めて最も高くなりました。

【営業トラックの交通事故発生状況】

（令和5年中）

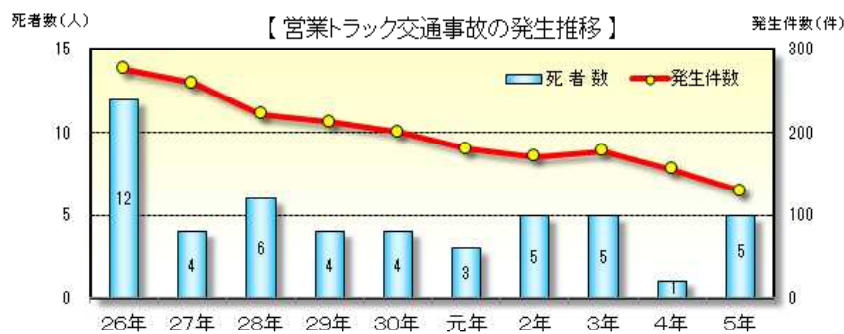
| 区 分 | 発生件数 | 死 亡 事 故 | | 負 傷 者 数 | | |
|-----|-------|---------|-------|---------|------|-------|
| | | 件 数 | 死者数 | 重 傷 | 軽 傷 | 計 |
| 本 年 | 129 | 3 | 5 | 15 | 157 | 172 |
| 前 年 | 156 | 1 | 1 | 20 | 173 | 193 |
| 増 減 | -27 | 2 | 4 | -5 | -16 | -21 |
| 率 | -17.3 | 200.0 | 400.0 | -25.0 | -9.2 | -10.9 |

2 発生推移（基礎データ平成26年～令和5年）

過去10年間の発生推移を見ると、発生件数は、緩やかな減少傾向が続いています。

死者数については、平成26年は12人（前年比+9人）と大幅に増加しましたが、平成27年以降は一桁台で増減を繰り返し、令和5年は5人（前年比+4人）と前年に比べ大幅に増加しました。

また、営業トラック100台当たりの事故件数は、減少傾向が続いており、10年間で半数以下（1.2件→0.5件）に減少しました。



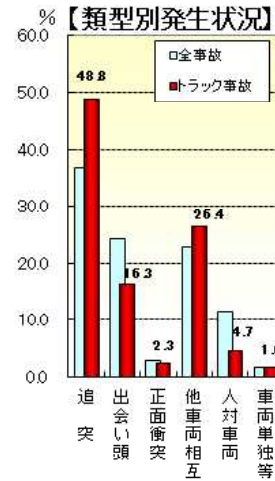
| 区 分 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 元年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 死者数 | 12 | 4 | 6 | 4 | 4 | 3 | 5 | 5 | 1 | 5 |
| 発生件数 | 276 | 260 | 223 | 213 | 201 | 181 | 171 | 178 | 156 | 129 |
| 営業トラック台数 | 22,681 | 22,828 | 23,185 | 23,508 | 23,791 | 24,059 | 24,353 | 24,410 | 24,146 | 24,018 |
| 100台当たりの件数 | 1.2 | 1.1 | 1.0 | 0.9 | 0.8 | 0.8 | 0.7 | 0.7 | 0.6 | 0.5 |

※営業トラック台数：東北運輸局HPより、令和5年11月末時点

3 営業トラック事故の発生傾向等 (令和5年中)

(1) 追突事故が多い

事故類型別では、追突事故の発生が多く、約5割(129件中63件。48.8%)を占めており、全事故の構成率(4,033件中1,484件。36.8%)より12.0ポイント高くなりました。



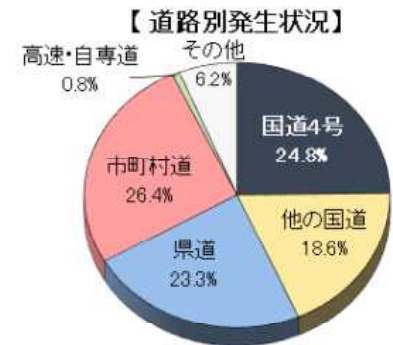
(2) 安全不確認、前方不注意による事故が多い

違反別では、安全不確認による事故が最も多く(129件中45件。34.9%)、次いで前方不注意による事故(42件。32.6%)が多くなりました。

(3) 国道での発生が多い

道路別では、国道での発生が最も多く(129件中56件43.4%)、次いで市町村道(34件。26.4%)が多くなりました。

また、全体の約2割(32件。24.8%)が国道4号で発生しました。



(4) 大型車の事故が多い

車種別では、大型車が約4割(129件中47件。36.4%)を占めて最も多く、次いで軽自動車(41件。31.8%)が多くなりました。

前年と比較すると、大型車は-15件、中型車は-4件、軽自動車は-11件と減少し、準中型車は+2件、普通車は+1件と増加しました。



(5) 昼間の発生が多い

昼夜別では、約7割(129件中95件。73.6%)が昼間に発生しており、時間別では、午前11時台の発生が最も多くなりました。



曜日別では、木曜日(25件)が最も多くなっており、最も少ないのは日曜日(8件)となりました。

